

式 辞

ただいま、入学を許可しました**359**名の新入生の皆さんを迎え、本日ここに、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、神奈川県立横浜翠嵐高等学校 第70回入学式を盛大に迎えることができますことに、心からお礼申し上げます。

また、保護者の皆様におかれましては、立派に成長したわが子の晴れ姿をご覧になって、さぞ頼もしく感じておられることでありましょう。心からお慶び申し上げます。

さて、新入生の皆さん、入学本当におめでとう。

本校は、大正3年に前身である県立第二横浜中学校が開校してから百年を超える歴史と伝統をもつ学校であります。その校風として必ず取り上げられる言葉に「大平凡主義」があります。これは、初代校長であります滝沢又市先生が生徒に話された「平凡主義」という言葉が、時代とともに「大平凡主義」という言葉になって現在に伝えられています。

「大平凡」とは、平凡であることを大切に、平凡であることの価値を認めて大切に、言い換えれば当たり前なことを大事にして、一日一日を大切にすることなのです。どうか翠嵐生としての「平凡」とは何かを考え、それを当たり前に行えるよう努力してください。

そうは言っても、今の皆さんの表情を見ると、これから始まる高校生活に対する自信と少しの不安が混じり合っているように感じます。そんな皆さんが、これから横浜翠嵐高校での学校生活を送るにあたって、私から2つのこととお話したいと思います。

一つ目は、「能力の差は小さいが、努力の差は大きい」という言葉についてです。

この言葉そのものの作者は不明ですが、世界の偉人たちの名言や格言を調べてみると、多くの偉人たちが、この言葉の意味のようなことを言っています。私は、すべての人間が心に秘めている言葉だと思います。これから高校生活が始まると勉強や進路のこと、学校行事や部活動のことなどそれぞれに新しい目標を立て、努力されると思いますが、その過程では、厳しいことやつらいこともたくさんあると思います。時には、自分だけでは抱えきれない不安や焦りを覚えることもあるでしょう。

そんな時こそ、この言葉を思い出してください。さらに言えば、継続の差はもっと大きいはず。そしてもう一つ、

そんな時にこそ、家族や友達、先生に相談をしてください。このくらいのことだと・・・悩みをためないことです。悩みに大小なんてありません。笑って相談できることも、真剣に相談したいことも「同じ悩み」だと思います。

二つ目の話は、「未見の我」（みけんのわれ）という言葉についてです。

安積得也（あずみ とくや）という人の「光明（こうみょう）」という詩に

自分の中には 自分の知らない 自分がある
みんなの中には みんなの知らない みんながある

という一節があります。

つまり「未見の我」とは、この詩のように、皆さんがまだ気がついていない自分自身のことを言います。義務教育を終え、高校生となった皆さんは、周囲の状況がどうであろうと、自分で自分自身をつくっていかなくてはなりません。

3年間の高校生活をとおして、ぜひ自分の中に秘められている、この自分も知らない未知の力、限りない可能性をみつけてほしいと願います。実は自分自身というのは、自分にとって一番身近な存在であるにもかかわらず、自分の顔を直接見ることはできません。鏡や写真を通して、あるいは他の人が言ってくれることを通して、間接的にしか自分自身を理解することができない存在なのです。考えてみれば自分自身とは自分にとってとても遠い存在なのかも知れません。

だからこそ、毎日を何となく過ごすのではなく、目の前にあるものに真剣に粘り強く取り組み、「未見の我」を発見し、大きな夢や目標にチャレンジしてください。私たち職員もそのために努力を惜しみません。

ここで、保護者の皆様に一つだけお願いがあります。

私たちは、この学校を舞台にして、生徒一人ひとりの意欲や努力する心を育てながら「学力向上進学重点校アドバンス校」という使命を、責任を持って指導していく所存でありますので、どうか学校に足を運んでいただき、授業参観や学校行事をとおして、「お子様」の成長の様子を見守っていただきたいと思います。

最後になりますが、新入生の皆さんが、横浜翠嵐生として自信と誇りを持ち、「初心を忘れることなく」、一人ひとりの夢実現に向かって、自らを磨き、鍛え、新しい自分を創造していくことができるよう、皆さんの努力と活躍に期待して式辞といたします。

平成 27 年 4 月 7 日 横浜翠嵐高等学校長 佐藤 到